

KENBUN JOURNAL

新しいケンブン

New Culture, New Experience
愛媛県県民文化会館



ケンブン

KENBUN JOURNAL New Culture, New Experience

Vol. 001
2024

Prologue

こんにちは。愛媛県県民文化会館、略してケンブンの新しいケンブンジャーナルです！アーティストインタビューからイベント情報、愛媛の文化コラム、道後周辺散策、果てはケンブンの裏側やらのんやら。ケンブンの文化情報を2カ月に一度発信していきますよー。チェックラッ!

Issue

えひめ文化振興コンソーシアム

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL.089-923-5111
<https://www.kenbun.jp/>

TAKE FREE



LIVE

優里ちゃんねる2000万人達成するぞ! TOUR 2024

〜お力添え何卒m()m〜 2024.7.13+

COVER

優里



ARTIST
INTERVIEW

「いっばい笑って
一緒に汗を
かきましょー!」

間寛平

(1)

EHIME CULTURE

広報・たぬ子の

ゆかりアーティスト

interview

KENBUN COLUMN

ケンブンケンガク

エヒメ文化を語る

ケンブン人のお仕事

県文と私

ケンブン周辺見学



アーティストインタビュー

FEATURE

いっしょに笑って
一緒に汗をかきましょう！
間寛平

PROFILE

1949年7月20日生まれ、高知県宿毛市出身。1970年に吉本新喜劇に入団。24歳という若さで座長に昇格し、数々のギャグで人気を博す。1989年に退団し東京進出。2008年から2011年までマラソンとヨットで世界一周する「アースマラソン」に挑戦。2022年には吉本新喜劇ゼネラルマネージャーに就任した。

Q.1

— 7月28日に「吉本新喜劇65周年記念 ツアー 愛媛公演」が行われます。今公演のポイントをお教えください。

65周年のテーマは「動く」なんです。思い切り動いて、汗をかいて、お客さんに喜んでもらえる新喜劇をやりたいなあかんなど。僕はいつもギャグで「わしゃ、止まると死ぬんじゃ〜」いうてるんですけど、それくらいの気持ちで動いてますね。座長の吉田裕をはじめ、座員みんなが全力で汗をかいてる新喜劇を楽しんでほしいです。そして今回は、20代30代の若手やテレビに出ていない子にも注目してもらって。すごい頑張ってるし、会社としても大事に育てているので、「あ、こんな子がいてたんや〜」と頑張りを認めてあげてほしいです。

Q.2

— 長く愛されている新喜劇。笑いを届けるために意識していることはありますか？

お客さんへの感謝の気持ちを忘れずにやっていかなあかんと思ってます。わざわざ劇場まで来てくれてね。三波春夫さんが「お客様は神様です」というたのが、身にしみてわかりますもん。だから、舞台が終わって着替えるときに、汗で衣装がベトベトになっとかんと、僕はもう納得がいけないんです。そのくらい一生懸命やるっていうのを一番大切にしますね。

Q.3

— ゼネラルマネージャーとして目指す吉本新喜劇とは？

やっぱり昔からずっとやっているコテコテの新喜劇を続けていきたいですね。若い子らはスマホとかインスタとか最近のネタを入れたがるんですけど、おっちゃん、おばちゃんにはわからへん。ポカーンですわ。コテコテの芝居は小さい子どももわかりやすいし、泣いている人に「わろてんの？」というだけで腹を抱えて笑う。やっぱりコテコテが一番。全世代にわかりやすいやつがええです。

Q.4

— 間さんは高知県出身で、幼稚園時代は宇和島で過ごされました。何か思い出はありますか？

宇和島のことはうすうす頭に残ってますね。海で小さいカニを捕まえたり、洪柿を食べておかに怒られたりしたこととか。当時は井戸から水を汲み上げてたんですけど、井戸をのぞき込んだらあかんぞーとも怒られてました。そんな思い出ですわ(笑)。

Q.5

— (笑)。ありがとうございます。最後に、公演を楽しみにしている方々にメッセージをお願いします。

愛媛県にはご縁のある人がいっぱいいて、毎回公演を見に来てくれるんです。みんなと会えるのがうれしいし、おいしい食べ物もいっぱいあって、愛媛に行くのがほんまに楽しみです。65周年の新喜劇をお客さまに喜んでもらえるようにと頑張ってますので、ぜひ見に来てほしいと思います。いっぱい笑って、一緒に汗をかきましょう！

INFORMATION



吉本新喜劇65周年記念ツアー 愛媛公演

7月28日(日) メインホール
11:30~(開場10:45)、
15:30~(開場14:45)

間寛平ゼネラルマネージャー+新座長のアキと吉田裕、そこにすっちゃん、酒井藍を加えた5名を軸に贈る「65周年記念ツアー」。愛媛公演では間寛平、吉田裕、辻本茂雄、島田珠代など豪華新喜劇座員が登場予定。ネタ組には、村上ジョージ、矢野・兵動、蛙亭(ほか)が出演予定。チケットは愛媛県民文化会館、あいテレビほか、各プレイガイドで販売中。

間/089-921-2192(あいテレビ)
料/6,500円 ※売り切れの場合あり

EHIME CULTURE

伝統文化からサブカルチャーまで愛媛にゆかりのあるアーティストに広報のため子がインタビュー

ARTIST

なつ茶印刷店 村井奈津代さん

2002年よりシルクスクリーンプリントTシャツの仕事に携わる。2020年8月「なつ茶印刷店」開業。繊維へのプリントをメインに、プリントTシャツなどを製作。

@natsucha.printstudio
@188qlqt

シルクスクリーン
プリントの楽しさをみんなに

松山市でシルクスクリーンプリントスタジオ「なつ茶印刷店」を構える村井奈津代さん。彼女がシルクスクリーンと出会ったのは、20代の頃。プライベートで製作現場のお手伝いをしていたところ、前任の刷り担当者が退職したことで、思いがけず仕事を引き継ぐことに。最初の3年間はインクの調合や刷りを何度も失敗し、落ち込む毎日だったそう。そんな彼女だが、経験が増える毎に感覚で作れる色数が増えていき、現在では調合中の様子などインクのかわいさや美しさをSNSで発信している。「今後はハンドプリントの楽しさを体験できる場を増やしていきたい」と、ワークショップの開催に向けて意欲的に準備を進めている。イベントなど見かけた際は、ぜひ体験してほしい。

聞く、
見る、
ため子が
聞くん！

ゆかりアーティスト
interview

vol.1

もっと読みたい方は
こちら



愛媛の芸術・文化 広報・ため子

暮らしと自然の
バランスによって
現れる風景が美しい

ARTIST 油絵画家 村上佳苗さん

故郷である島の風土や“土着観念”を軸に、見聞き体感し身体の一部となった“この島のどこかでいつかある(あった)こと・もの・ひと”の積み重なりを描く。

@murakamikanae

「小さな頃から、地元のためになる仕事がしたいと考えていました」。そう話すのは、油絵画家・村上佳苗さん。自分の半径数メートルから作品のイメージを広げる彼女にとって、地元・大三島での暮らしは作品制作の大切な土台となっている。島のただ美しいだけではなく、人間の手が届かなくなってしまった部分も含め、暮らしと自然のバランスによって現れる風景を美しいと感じる彼女。キャンパスの一つとして瓢筆を使用しているのは、全方位の視点を一つの作品に入れ込みたいと考えたとき、全体が曲線でつながっていて端がないから。少し歪な形をしているところが、視点の不安定さや頼りなさや合っていて、自分の表現したいことができるのだそう。

KENBUN kengaku

ケンブンケンガク

知らない人も多い(かもしれない)けど、ケンブンって実は名建築。建物のトリビアから普段、見ることができない裏側まで紹介

THEME [ケンブンは、あの丹下健三が設計した建物だ!]



01

01 花崗岩や大理石を使用し、潇洒な空間をつくり上げている「県民プラザ」 02 愛媛県のシンボルとなるような堂々たるデザイン 03-04 2,725人を収容できるメインホールは国内有数の規模。縦横も名だたる芸術家がデザインしている 05 エレベーター付近にも大理石を使用。通路であっても高級感を漂わせる



02



03



04



05

ケンブンの設計者は「丹下健三」。“世界のタンゲ”と呼ばれ、広島平和記念資料館、国立代々木競技場、東京都庁舎など日本が誇る建築物をいくつも設計した巨匠だ。そんな彼が、なぜケンブンの設計に携わったのか。父の出身地が今治市で自身も少年～青年期を過ごし、愛媛県に縁があったから、ケンブンの前身である愛媛県民館を手掛けたからなど、さまざまな説が考えられる。丹下健三建築の特徴は、日本の伝統的な建築美のなかに、機能性を重視したモダニズム様式を融合させていること。ケンブンもその特徴がよく表れており、なかでも正面エントランスの「県民プラザ」は4階吹き抜けの壮大なアトリウムを置き、そこから各ホールへとつなぐゾーニングがなされている。外観はシンプルに、スケール感と機能性をストレートに表した造形となっている。時代が変化しようとも、ケンブンを文化的財産として後世に残そうとする丹下健三の意志が強く感じられる建物である。

ケンブンのお仕事

KENBUNJIN no oshigoto

ケンブンで働く人の現場に潜入!



ボタン一つで点くものではない舞台照明。現場での調整が大切!



照明スタッフ 東本豊和さん

この道約40年の東本さんは、10数種類の照明機材を駆使し、最高のパフォーマンスに仕上げてくれるスペシャリスト。ひと言で照明と言っても、プロかアマチュアか、コンサートか式典か、またライトの大きさは? 濃さは? 人数は? etc... 催しごとにライティングが異なる繊細な仕事だ。「トラブルがなく、スムーズに終わることが喜び」との言葉に、仕事への責任と誇りが垣間見える。

県文と私

KENBUN to WATASHI

県文との思い出を語る

by ケンブンスタッフ(施設管理) 藤崎純子さん

当館が開館した頃(1986年)、私はまだ中学生か高校生でした。国民のランチタイムのお供だった『笑っていいとも!』で、タモリさんが県文から公開生放送をしたことがあるんです。SNSのない時代、芸能人は今より遠い存在でしたから、その日の新聞のテレビ欄を見てびっくり! 私もウキウキウォッチングしようと、VHSで録画して観たことを思い出します。県文のこけら落としの記念企画だったことを後から知りました。また後の某番組で、「行き先を告げられず、飛行機に乗せられてやって来た」と話されていました。



県文との思い出募集中

ケンブン周辺見学

KENBUN Surrounding tour

ケンブン近くの素敵な施設を紹介



セキ美術館

道後へ続く「きたたつ」のそば、閑静な住宅街にたたずむ。横山大観や加山又造ら日本近代画壇を代表する画家たちの作品を展示し、ロダンの彫刻作品を展示する「ロダンの部屋」も人気。9月1日(日)まで、夏の所蔵作品展&「小磯良平特集展示」を開催。

住/松山市道後喜多町4-42
電/089-946-5678
営/10:00~17:00(入館は~16:30)
休/月・火曜(祝日は開館)



1980年に広島から松山に移住した演劇好きの私は、劇団をつくり、年に2、3回ペースで公演をしていました。そのなかで松山は、演劇に関わる環境がまだまだ整っていないと痛感していました。具体的には、鑑賞・上演機会の少なさ、稽古や公演に適した場所が無かったことなどです。そのため創作活動を控えるようになり、これらの課題解決を目的として、2007年に文化芸術振興の中間支援を行う「NPO法人シアターネットワークえひめ」を設立。稽古場・劇場をつくりました。大街道のビル4階から農農業試験場跡に移ったのち、2012年5月、「シアターねこ」を開設したのです。



シアターねこ 鈴木美恵子さん
シアターねこ代表、NPO法人シアターネットワークえひめ理事。松山に表現の場を提供し、松山の演劇に関わる場所をつくりたいと活動。



“いわゆる”という通例や俗称はいつの間にかできていく。自分の捻くれた性格のせいか腑に落ちないことがちらほら。そういったことに、BBAならではの目線でここで向き合っていこうと思う。例えばライブに行くときに使う「参戦」。何故にみんな戦うのだろう。もちろん相応の争奪戦を経て、やっと思いでチケットを手に入れた人もいるはず。けれどライブで何かを競っている? スタンドイングの場所取り? でもそういう意味で使っている人はいない。たぶん。参加、観覧、視聴では少し味気ない。もっと粋な言い方があればいいのに。まあそれもなんか違うと言いきかねないけれども...



エディター・ライター 渡邊麻子さん
愛媛在住20年目。年間のライブ参戦数は平均70本~90本程度。音楽的にはとにかく雑食なので、好きなジャンルを聞かれると困ります。



関西圏のライブに向かう交通手段は、余額を味わえる高速バス一択



時には轍を辿ったり、描いたり。

その①【THEME: ぼくの知ってるトキヨー】

ハンズにロフト、無印良品といった、ちょっと小洒落た生活雑貨を扱うお店は愛媛でもすっかり根付いてしまった感があるけれど、全国展開のチェーン店ってどこも同じ品ぞろえで、安心以上の個性は少ない。80年代の松山には「東京少年」という尖った雑貨屋があった。豹柄をあしらった食器やセルロイドの文房具、プリント入りの軍手や柄シャツなど「何これ?」っていうものが所狭しと並んでいて、感度の高い人たちが集っていた。そう——。文化が発信されるのって、こんな店からだったりすること。

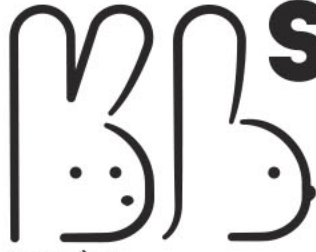


本の轍 越智政尚さん

春日町にて小さな本屋「本の轍」を営む。暮らしとアートに特化した古書、新刊、雑誌などを取り扱う。イベントや展示も行い、文化の発信の場となっている。



KENBUN SCHEDULE



2024.6-8 **M**メインホール **S**サブホール

※本文中のデータは2024年5月10日現在のものです。チケットが売り切れの場合があります。また予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

ケンブン

M 第51回愛媛交響楽団サマーコンサート

6月9日(日)14:30~(開場14:00)

創立から50年を越えるアマチュアオーケストラが、指揮者に上野正博氏を招いて演奏。演奏曲目は、外山雄三「管弦楽のためのラプソディー」、スメタナ交響連詩「我が祖国」から「高い城」「モルダウ」、ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界より」。



問/089-934-2460(愛媛交響楽団)
¥/指定席2,000円、一般1,500円、小中高生700円
(当日は+200円、小中高生は800円)

S おとぎと魔法の劇場

6月15日(土)①11:00~(開場10:30)、
②14:00~(開場13:30)



ルイス・キャロルの名作文学「不思議の国のアリス」を下敷きに、さまざまなおとぎ話のキャラクターたちと過ごす不思議な旅を描く、ファンタジックで奇想天外な舞台。

問/089-927-4777(愛媛県文化振興財団)
¥/中学生以上1,500円、子ども無料
※子どものみの入場は不可 ※全席自由席、子ども席あり(一人で鑑賞できる子どものみ) ※未就学児の入場は不可 ※車いす席をご希望の場合には、愛媛県文化振興財団までお問い合わせください

M ハンガリー・ブダペスト交響楽団

ピアノ: 亀井聖矢 指揮: マリオ・コシック

6月28日(金)19:00~(開場18:00)

ハンガリーを代表するオーケストラが松山初上陸。「ロンティポー国際音楽コンクール」にて第1位を受賞した、話題の人気ピアニスト・亀井聖矢が共演。



問/089-933-8011(EBCプロダクション)
¥/S席12,000円、A席10,000円、B席8,000円、C席6,000円 ※未就学児の入場は不可

M 優里ちゃんねる200万人達成するぞ

TOUR 2024~お力添え何卒m(_ _)m~

7月13日(土)17:00~(開場16:00)

YouTubeチャンネル「優里ちゃんねる」の登録者数200万人突破を目指し、ツアー初の各地方の隅々までめぐるライブを開催。

問/089-947-3535(DUKE松山)
¥/ゆーりんちの席(前方エリア・入場特典付)12,000円、指定席8,500円

M 第26回 NHK交響楽団 松山定期演奏会

7月14日(日)18:00~

(開場17:00)

指揮にN響初出演となるグスターボ・ヒメノ、ソリストにペルリン・フィルの第1コンサートマスターを務めるノア・ベンディックス・バルグリーを迎える。



主催: NHK松山放送局、愛媛新聞社、NHK交響楽団
問/050-5541-8600(ハローダイヤル)※9:00~20:00(年中無休) ¥/一般: S席8,000円、A席6,500円、B席5,000円、C席3,500円、D席2,000円、車いす席5,000円、ユースチケット(チケット購入時29歳以下): 一般の各席の半額
※ユースチケットS~D席の取り扱いは「WEBチケットN響」のみ。事前に「ユース登録」が必要 ※車いす席(一般・ユース)は「DUKE松山(089-947-3535)」へ要問い合わせ

S ピアノコンサート in Matsuyama

8月17日(土)16:00~(開場15:30)

関西屈指のアマチュアピアノアソシエーション「ショバニスト関西」14名によるショパンほか、ピアノ名曲コンサート。特別ゲストピアニストは越智もとも。

問/070-5661-7705
(ショバニストアーツ事務局)
¥/入場無料(自由席)
※未就学児の入場は不可



ケンブンに新しいキャラクターができたよ!

愛媛県民文化会館をもっと親しみやすい場所にするため、新しいキャラクターが誕生! 再生や豊穣などがテーマのイメージを持つ「うさぎ」で「見聞を広げる」とし、「見る」と「聞く」の姿勢をとった耳の大きいうさぎのキャラクターでケンブン頭文字のKとBを表現している。



PICKUP



M テレビ愛媛 開局55周年記念 ブロードウェイ ミュージカル クラスアクト

6月30日(日)18:00~(開場17:30)

世界中で愛される大ヒットミュージカル『コーラスライン』の作詞家として、トニー賞を受賞したエドワード・クレバンの楽曲による自伝的ミュージカル。主人公エドに寛利夫、エドのよき理解者ソフィに紫吹淳ほか、豪華キャストを迎える。

問/089-933-0322(テレビ愛媛)
¥/S席9,000円、A席7,500円、B席5,000円 ※未就学児の入場は不可

県文見聞録 vol.1

このネコ 地元民であるが

ケンブンは どういった施設か いまだよくわかっていない

ケンブンは 愛媛県民文化 会館の 最大級の 文化施設だ!!

知らないなんて もったいない!!

「EHIME×CULTURE」マルシェに出店しませんか? 10月13日(日)11:00~17:00

雑貨や家具、インテリア、アクセサリ、絵画、工芸品などハンドメイド作品を販売する出店者85ブースを募集。ブースサイズ2m×2m(一部2m×1.5m)、ブースによってはワークショップもOK!

¥/1ブースあたり3,000~4,000円 問/089-927-4777(愛媛県文化振興財団 総務事業部「EHIME×CULTURE」出店申込み) 応募締切/6月12日(水)まで。詳細は財団HPから募集要領・ブース別料金表を確認し、出店申込書をダウンロードして窓口持参または郵送にて申し込み

RESTAURANT INFORMATION

レストランのお知らせ

Café&Dining TSUNAGU
ランチや午後の語らいにぴったり

ケンブン1階にあるレストラン。ランチタイム(11:00~L013:30)には、シェフこだわりのパスタをはじめとする洋食プレートから、うどんや丼ものまで、多彩なメニューがそろそろ。デザートやサンドイッチなど軽食もおすすめ。ランチや午後の語らいを、おいしい食事とともにどうぞ。

※営業日はSNSでチェック

アンケートにご協力ください

よりよい紙面づくりを目指すため、右記の2次元コードから、本紙に対するご意見・ご感想をお寄せください。

ケンブンジャーナル編集部

kenbun_journal@ecf.or.jp

【個人情報の取扱いについて】 個人情報は読者層の調査のために使用します。また、お寄せいただいたご意見は愛媛県民文化会館のホームページや刊行物などに匿名で掲載させていただくことがあります。ご本人の承諾のない限り、前述の目的以外に使用、第三者に提供することはありません。

KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

2024 vol.001

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL 089-923-5111

企画・発行: えひめ文化振興コンソーシアム <https://www.kenbun.jp/>

ケンブンジャーナル編集部: 愛媛県民文化会館内 企画・編集: 藤崎純子・河内春香・植松郁香・河野英一郎(以上えひめ文化振興コンソーシアム)、松下亮介・和氣敬憲・高須美登里・池川ゆかり デザイン: 林真央・土居麻巴香(以上エス・ピー・シー) 印刷: セキ株式会社 2024年5月25日発行/※掲載データにつきましては、2024年5月10日現在のものです。情報の内容は変更される場合があります。本紙記事、写真等の無断複製、及び転載を禁じます。